

富窪精機、新工場稼働

車用ゴム・シリ コーンゴム金型 生産効率を向上

【名古屋】富窪精機（愛知県春日井市、富窪俊一社長、0568・31・2520）は、自動車用ゴム・シリコーンゴム金型主力の新本社工場「未来工場」を稼働した。春日井市の旧本社工場を移し、愛知県小牧市の旧2工場の機能も集約、生産効率を高める。好調な受注に合わせマシニングセンター（MC）1台も8月に追加し、2019年3月期売上高で16年3月期比1.5倍となる7億5000万円を目指す。



新工場は敷地面積約3万4000平方メートル。2階建てで延べ床面積約1300平方メートルと旧3工場合計の1.2倍。室温を ± 1 度C以内に制御でき、約140平方メートルと旧工場の3倍広い恒温室も備える。投資額は土地代含め3億5000万円。設備の稼働率も高める。新MCは投資額4000万円。高精度MCは3台目。主力の自動車防振ゴム用金型に加え燃料電池自動車（FCV）のスタック向けゴムシール製造用金型や航空機部品加工、治具製品も強化する。

億5000万円。設備は旧工場分を移設した。旧本社工場は売却、賃借していた小牧市の旧2工場は返却する。

以前は3工場で作成していた。今後は1工場情報共有し、設備の稼働率も高める。新MCは投資額4000万円。高精度MCは3台目。主力の自動車防振ゴム用金型に加え燃料電池自動車（FCV）のスタック向けゴムシール製造用金型や航空機部品加工、治具製品も強化する。

新工場に合わせコーポレートアイデンティティー（CI）も導入した。会社ロゴを作り若さを連想させる黄緑色をコーポレートカラーに設定。工場外観もデザインを重視した。新工場とCIで社員の士気も高める。